



国交省、第10回「自動車整備技術の高度化検討会」を開催 ASVなどへの対応を求める 整備事業者の声を新たな汎用 スキャンツールの標準仕様に反映

国土交通省は1月12日、第10回目の「自動車整備技術の高度化検討会」を開催しました。

会議では、スキャンツールについて現在の保有状況や今後求められる機能等のニーズを把握するために実施された、アンケート調査の結果が報告されました。アンケートの調査対象者は、(一社)日本自動車整備振興会連合会(日整連)、日本自動車車体整備協同組合連合会(日車協連)、全国自動車電装品整備商工組合連合会(電整連)の会員(カーディーラーを除く)の整備事業者です。ランダムで抽出した事業者に対して1,836票の調査票を配布し、746票の有効票を回収しています。

同アンケートによると、全業態合計でのスキャンツールの保有率は82%でした。また、未保有と回答した事業者のうち19%は、レンタルや共同使用などの方法で、必要に応じてスキャンツールを使用しています。

スキャンツール保有者に対するアンケート結果によると、全入庫車両のうちスキャンツールを使用する車両の割合(スキャンツールの使用率)の平均は18%でした。なお、まったく使用しない事業者(使用率0%)は2.3%、ほぼ全車に使用している事業者(同95~100%)は3.8%です。

多機能型スキャンツールの利用状況については、車検・点検時に有料メニューとして実施している事業者が9%、無料メニューとして実施している事業者が20%、修理依頼時の故障診断に使用している事業者が84%との結果が得られています。一方、対応できずに困った作業を尋ねた設問では、ハイブリッドシステムやASV関連機能(ESCを除く)が高い傾向が見られました。

また、2つのワーキンググループ(WG)からは、それぞれが担当する検討議題の状況が報告されました。

「新たな標準仕様検討WG」は、整備事業者からツールメーカーに寄せられた要望などについて、スキャンツールに対し整備の現場で求められている機能を示すとともに、車両に対して義務化、基準化されている安全装備や、装着率の高い先進安全技術を確認し、新たな標準仕様の候補(表)を提示しました。

「高度診断教育WG」はディーラーと一般整備事業者の教育体制を比較した上で、一般

整備事業者がディーラーと同等レベルの情報・資料・機器等を活用できる整備環境の構築、複数メーカーに対応し事業者のレベル・ニーズに応じた継続的・効率的な教育体制の構築、定期的に新技術・新機構に触れられる機会創出の必要性を訴え、新たな研修スキーム案を示しています。

次回検討会は3月中旬頃に開催され、その後中間取りまとめが作成・公表されるとともに、新たな汎用スキャンツールの標準仕様案及びスキャンツールの教育体制、カリキュラムが策定される見込みとなっています。

新たな標準仕様の候補(ASV、パワートレイン)

赤字 : 対応拡充の検討対象候補システム

整備要領書で記載: ○
整備要領書/スキャンツールともに無し: ×

機能	対応システム	ASV(装着率高い順)										パワートレイン					
		ESC	トラクションコントロール	HD-LED(単体)	ESS(緊急制動表示装置)	バックカメラ(単体)	加速抑制装置	ペダル踏み間違い時低速度域衝突被害軽減ブレーキ	衝突被害軽減ブレーキ	アダプティブクルーズコントロール	車線逸脱防止装置	オートブレーキ	AFS/ADB	タイヤ空気圧監視システム	(電動パワートレイン)ハイブリッド	ポスト新長期(3.5t超)	ディーゼル車
基本機能	ダイヤグコード読み取り・消去	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	作業サポート	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
拡張機能	データモニター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	フリーズフレームデータ読み取り	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	アクティブテスト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

ASV 及びパワートレインにおける新たな標準仕様の候補 (出典: 国土交通省「自動車整備技術の高度化検討会 新たな標準仕様検討 WG 第10回検討会資料」)

AD損調、「2015年度全国好取組み発表会」を開催 技術セミナーなどへの出展・協力を通じ NGPリサイクル部品活用拡大、PR強化を

あいおいニッセイ同和損害調査(株)(以下、AD損調。小川三千夫社長)は2月2日、あいおいニッセイ同和損害保険(株)(以下、AD損保。鈴木久仁社長)本社センチュリーホール(東京都渋谷区)で「2015年度全国好取組み発表会」のチャンピオン大会を開催しました。

全国14拠点のAD損調技術調査部が日頃の調査・研究活動や代理店のバックアップ、営業部門との連携など様々な取り組みを発表し、共有を図るためのものです。

4回目となる今回のチャンピオン大会には、鈴木社長をはじめAD損保の役員も多数出席された中、NGP協同組合の佐藤幸雄理事長、玉木基裕専務理事、(株)NGPの杉本淳二専務執行役員、石塚克美執行役員も参加させていただき、全国で100を超える事例からチャンピオン大会まで勝ち残った、8つの調査部によるプレゼンテーションをご披露いただきました。

そのうち近畿北陸技術調査部の発表では、修理費適切化と収益改善を目的として技術セ



ミナーを積極的に実施した事例が発表され、その中ではNGP協同組合が出展・協力し、リサイクル部品の有効活用法を提案した事例もご紹介いただきました。

損害調査の現場では自動車保険等級制度改定以降、修理費適切化と車体修理工場の入庫・収益拡大に向けた取り組みが強化されており、NGP協同組合としては、その一助と



AD損調・小川社長(左)と談笑する佐藤理事長(右)

パートナーズセミナー開催とNGP協同組合の出展・協力を紹介した近畿北陸技術調査部のプレゼンテーション

なるNGPリサイクル部品をより多くご活用いただけるよう、PR活動をこれまで以上に強化すべきとの意欲を深めています。

同会では来場者全員により即日投票が行われ、中国四国技術調査部の榎本剛志さんが第1位、近畿北陸技術調査部の長井努さんが第2位、千葉技術調査部の山田勉さんが第3位に選ばれています。

「海外共同コンテナ事業説明会」を開催 “NGPブランドを世界へ”を 合い言葉に知名度向上を図ります

NGP協同組合は2月24日、AP品川(東京都港区)で、NGP組合員を対象にした「海外共同コンテナ事業説明会」を開催し、組合員各社より35人が参加しました。NGP協同組合は、今期より海外事業の強化を進めており、海外共同コンテナ事業はその一環となります。

同事業は昨年1月から北関東支部でトライアルを行っており、海外で需要のある部品を支部内で協力して揃え、今まででコンテナを30本出荷してきました。そしてこのほど、実証を終え本格的な事業展開の見通しが立ったため、組織を挙げて海外共同コンテナ事業に取り組むこととなりました。

従来より、国内でニーズの低いリサイクル部品については、個社で海外輸出販売に取り組んでおりました。しかし、個社でコンテナ事業に取り組むとなると、コンテナを作る設備やノウハウがなかったり、車両を仕入れる規模にも各社差があるためコンテナに積む部

品が揃えられなかったりするケースがありました。

同事業では、安定した海外輸出事業を行うために、コンテナに積む部品を組合員間で協力し合い揃えることで、会社の規模や設備に関係なく平等にリサイクル部品を海外に展開できるようになります。

また、海外バイヤーと直接やり取りをする際、参考にする価格がないため、その場で価格を決めて販売していたものが、同事業では素材や部品の価格を組合員間でオープンにし、値付け相場価格を収集したデータを基に、価格の一覧表を独自に作成し、会社間での格差をなくするとともに、適正な価格で海外に輸出できるようにもなります。

説明会の冒頭、佐藤理事長は「この事業はNGP各組合員を支援するため、5～10年先を見据えNGPグループ全体で取り組むこととしたものです。ただしこの事業は非常に難易度が高く、個社ベースでは容易に決めら



れることも、共同コンテナを運営する上では困難になることがあります。ぜひお互い力を合わせながら、この事業が成功するよう進めていただきたく思います」と、組合員同士の協力を呼びかけました。

また、小林信夫副理事長は、「“NGPブランドを世界へ”を合い言葉に、業界一高い品質基準を設けているリサイクル部品を海外でも販売することで、日本の自動車リサイクル部品=NGPと呼んでもらえるよう、ブランドの認知度を高め、その結果NGPが日本一のサプライヤー集団へと至る近道となることを理解して、この事業に取り組んで下さい」と激励しています。

今後も国内市場を優先しつつも、鉄非鉄相場が大幅に下落する中で、組合員の経営基盤の強化を図る施策の一つとして取り組んで参ります。

AD損保、「第2回ロープレ全国大会～ミスター保険R1グランプリ2015～」を開催

「ロープレ1,000本ノック」を柱に日頃の業務で培った販売スキルをモーター代理店同士が競う

あいおいニッセイ同和損害保険（以下、AD損保。鈴木久仁社長）が2月9日、同社本社センチュリーホール（東京都渋谷区）で「第2回ロープレ全国大会～ミスター保険R1グランプリ2015～」を開催しました。

同大会は、全国の同社モーター代理店から選ばれた自動車保険販売スタッフが、同社が2012年より開始しているロールプレイング研修「ロープレ1,000本ノック」を柱に、日頃の業務で培った販売手法を披露しながら、自動車保険の商談スキルと顧客対応力をロールプレイング形式で競い合うもので、全国大会には22人が参加しました。

1回戦は22人が6グループに分かれ、通販系または共済系自動車保険に加入するカー

オーナーに扮した同社トレーニングセンター長に、同社自動車保険の強みをアピールしながら中途更改を勧める商談が、制限時間15分で行われました。

準決勝には1回戦の各グループより上位1人ずつ、計6人が進出しました。この6人が3グループに分かれ、1回戦と同じく同社トレーニングセンター長をカーオーナーとして、保険料算出後にクロージングするまでの商談が、制限時間15分で行われています。

そして決勝では、準決勝の各グループより勝ち残った3人が、結婚前の同棲カップルに扮したありがとうミスター保険の高島健太社長とAD損保スタッフを相手に、保険料を算出しクロージングするまでの商談が、制限時



決勝戦に臨むメグロ自動車の本間瑞希氏（右）と、カーオーナーに扮し鋭い質問を投げかけるありがとうミスター保険の高島健太社長（左）

間20分で実演されました。

同居の家族に関わる年齢制限の定義や、複数年契約におけるゴールド免許割引の適用条件などの正確な知識の有無も問われるロールプレイングを経た結果、メグロ自動車コバックR7号新発田店（新潟県新発田市）の本間瑞希氏が最優秀賞を獲得。優秀賞には日免オートシステム未使用軽専門店トライアル篠路店（北海道札幌市）の佐藤由依氏、ミック松戸新田店（千葉県松戸市）の生川英子氏が選ばれています。

AD損調・埼玉技術調査部、「パートナーズセミナー」を開催

自動車業界を取り巻く環境の変化やスムーズな見積り協定につながる情報を共有



あいおいニッセイ同和損害調査（株）（以下、AD損調。小川三千夫社長）埼玉技術調査部は2月5日、（株）あいおいニッセイ同和自動車研究所（以下、AD自研。小松良郎社長）埼玉センター（埼玉県さいたま市）で、県内の自動車修理事業者を対象にした「パートナーズセミナー」を開催しました。

冒頭、挨拶に立った小川社長は「自動車保険の変化により、事故連絡後に保険を使用しない割合が3割にのぼっています。その結果、事故車両は自費修理へと流れており、安価な修理を求めるカーオーナーが増えていきます。修理技術を高めることで、顧客の満足と工場の収益につなげて下さい」と、研修会開催の趣旨を来場者に伝えました。

講演では、川口調査グループの佐久間浩志氏が「自動車業界の現状と今後」と題し、HV、PHV、EV、FCVなどの特徴や、樹脂ウィンドウ、超高張力鋼板など新素材の採用状況、先進安全技術の動向について解説しました。今後ますます進化する自動車に工場が対応していくためには、さらに高い知識と技術力、そして顧客の要求を読み取り提案していく能力が求められるとの見解が示されてい

ます。

その後、熊谷調査グループの清水良昭氏が、画像伝送で修理費協定をする際の適切な写真撮影方法について、具体的な事例を示してポイントを説明しました。

さいたま調査グループの水村栄二氏は、事故車修理時の作業性を向上させるため、アジャスターの視点からカーメーカーに対しパーツの構造などの改善点を提案した事例を紹介し、参加者に対しても修理に関する情報の提供を呼びかけました。川越調査グループ

の塩谷信幸氏は、偽装事故の事例を通じ、損傷の整合性を判断する能力や、写真撮影と各種計測で証拠を保全しておくことの重要性を強調しました。

AD自研の兼平聡首席研究員は、白濁黄変したヘッドランプレンズの修復作業について、実演を通じて作業のポイントを説明しました。さらに、（有）アスナルの宮崎慎也社長は、IHデントリペアシステムT-Hotboxを用いたボンネットの凹み修復を実演しています。

NGP 今月のCO₂削減量



リサイクル部品利用に伴う削減効果

平成28年1月： **3,845t**

※一般社団法人 日本自動車工業会が1998年に公開している自動車LCA（ライフサイクルアセスメント）データをベースに、NGPにて1500cc車両の部品重量調査結果からCO₂削減効果参考値を算出しております。



リターナブル梱包材利用に伴う削減効果

平成28年1月： **9.2t**

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

第10回初級生産管理者・フロントマン研修会、第25回初級営業マン研修会開催

“お客様第一!” 継続のための 基準・ルールと接客スキルを学ぶ



第10回初級生産管理者・フロントマン研修会及び、第25回初級営業マン研修会が2月18～20日の3日間、BumB（ぶんぶ）東京スポーツ文化館（東京都江東区）で開催され、生産管理者13名、フロントマン10名、営業マン4名の、計27名が受講しました。

初日には生産・フロント・営業合同で、NGPの理念や自動車リサイクル部品業界の動向、NGPグループ発展の歴史について学びました。その後各部門に分かれ、生産管理者とフロントマンはNGPシステムの基礎知識と運用ルールを学習しました。営業マンはCS（顧客満足度）や苦情、購買動機に関する講義「商いの心」を受講し、「物を買うってなんだろう。サービスを受けるってなんだろう」をテーマにしたグループディスカッションを行いました。

2日目と最終日はさらに部門ごとに分かれ、生産管理者はリサイクル部品商品化システムの流れ、品質基準の統一化、商品定義、車両入庫マニュアルの詳細を学習し、品質管理と商品登録を正確かつ厳格に行うことの大切さを学びました。

またフロントマンはその基本理念、お客様対応の基本とポイントを学んだのち、受注納品管理帳表から自身の販売動向を分析し、弱みや問題点を発見しました。さらに受注から商品の納品、売上計上までを実践形式でシミュレートしています。

営業マンは名刺交換、身だしなみ、接客、電話対応、報・連・相など営業マナーの実演及び演習を受け、自動車整備業界の動向についても学びました。また最終日には営業話法の基本に関する講義を受け、ロールプレイングを実施しています。

初日には佐藤幸雄理事長が講師として登壇し、NGPの理念及び自動車リサイクル部品業界の動向や今期第12期の事業方針について説明しました。その中で、「NGPグループにとって命の言葉は三大信条、その中でも特に重要なのは“お客様第一!”です。自社第一で勝手な行動をしていては、決して自社もNGPグループも売上を伸ばすことはできません。今回学ぶことを自社で活かし、NGPグループ発足以来の基本理念を守り行動することで、NGPグループそして自社を成長さ



NGPグループ発展の歴史とNGP協同組合第12期事業方針を説明する佐藤幸雄理事長



厳格な品質基準に沿った部品生産と正確な商品登録の重要性を説く佐々木謙次講師

せて下さい」と、受講生を激励しました。

3日目の修了式では、「積極的に社外に出て攻めの営業を行います」（株）オートパーツまるも、古市憲彦さん）と、研修終了後にに向けた決意を表明しました。

同研修会終了後の感想として、カースチール（株）の金井敏さんは「今回は主に商品に関する基準やルールを教えてくださいましたが、これらはお客様に安心して商品を購入していただくために必要であり、またNGPグループに属している社員が守り実行しなければならぬことを理解できました」と、“お客様第一!”実現のために様々な基準やルールがあることを肌で感じたようです。

自動車業界紙誌との記者懇談会を3年ぶりに開催

自動車アフターマーケット各業界の厳しい現状とその打開策について情報・意見交換



NGP協同組合は2月25日、品川プリンスホテル（東京都港区）で自動車業界紙誌との記者懇談会を3年ぶりに開催しました。

当日は佐藤幸雄理事長、長谷川利彦会長、多田幸四郎顧問、杉之間大和総務広報委員長をはじめとしたNGP執行部メンバーが出席するとともに、日頃の広報活動を通じて縁のある自動車業界紙誌記者13名にご参加いただきました。

その中で、昨年9月に発生した関東・東北豪雨における復興支援活動について、引き取った被災車両が総計869台にのぼったことを報告したほか、同10月の第11回通常

総会で第4代理事長に就任した佐藤理事長が掲げる4つの事業方針についても紹介しました。その後情報・意見交換を行うことで、自動車アフターマーケット各業界の厳しい現状を再認識するとともに、その打開策について貴重なご意見等をいただきました。

冒頭の挨拶で佐藤理事長は、「当組合は私が理事長へ就任した今期より、9つの支部を3名の副理事長がサポートする体制となっています。また、この懇談会の前に我々は理事会を開催しましたが、通常議題は迅速に解決し、本来すべきこれからのことを理事全員で話し合えるよう、従来からのスタイルを変え

る方針を決定しました。我々は今後も、時代の変化へ柔軟に対応しながら、全組合員が結束して数々の困難を乗り越えて参りますので、どうぞご期待下さい」と、佐藤理事長体制における組織力と実行力の高さを報道陣にアピールしています。

訃報

2月26日、(有)黒崎部品（新潟県新潟市）代表取締役、大谷弘様の御尊父・大谷和弘（おたにかずひろ）様のご逝去されました。享年84歳。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
http://www.ngp.gr.jp/

株式会社 NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201
http://www.ngp.co.jp/